

平成 26 年度学校評価 自己評価書

2015 (平成 27 年) 3 月
学校法人高橋学園
千葉学芸高等学校

1. 学校教育目標

〈1〉建学の精神と教育目標

建学の精神 「 創 造 」	
教育目標	1. 心の創造 強い精神力と思いやりの心 2. 智の創造 知性と判断力 3. 美の創造 感性と技芸

建学の精神

建学の精神は私立学校にとってその教育の最も根幹となる目標を示すものであり、すべての教育活動を建学の精神に位置づけて行われる。千葉学芸高等学校では、建学の精神「創造」のもと、美しい人類文化の創造にあたる実力を備えた人材の育成を図る教育活動を展開する。

教育目標

教育目標は、建学の精神「創造」の具現化のため、心・智・美の観点から獲得を期待する知識技能能力の内容を示す。

心の創造においては、物事への集中や忍耐のできる強い意志を備えつつ、優しい思いやりも併せ持つ人間性の涵養を図る。

智の創造において、知性を磨き、知識を蓄積するのは正しい判断のできる理性を備えるためである。

美の創造においては、美しいものを美しいと感じ、それを言葉や身体で美しく表現できる能力や技能の獲得を図る。

〈2〉教職員および生徒の行動目標

教育目標の実現のため教職員は、以下の信条のもとに教育活動にあたる。

《職員の信条》

- (1) 建学の精神を生かし、日本人の特性と校風を高揚せん
- (2) 自己の誇りと責任を自覚し、全機能の発揮に当たらん
- (3) 親和・協力の心を基とし、内容の充実を求めん
- (4) 良き社会人たる素質を磨き、生徒の進路に万全を期せん

生徒は、以下の誓いのもとに学校生活の充実を期す。

《誓いの言葉》	
(1) よい伝統と、よい校風をつくります	
(2) はつらつとした若さで学力・技能を磨きます	
(3) 愛敬の心を生活に表します	

また、以下の学年目標に沿って自己の研鑽・向上を図る。

1 学年の目標	《自学》 私たち1年生は、次の目標をしっかりと実行して進みます。 (1) 高校生としての礼法・言語・動作を立派に築きます (2) 友情・協同の精神を発揮します (3) 自信の持てるまで努力いたします
2 学年の目標	《充実》 私たち2年生は、学校の中心となり、充実した学年を築きます。 (1) 自分の将来の方針をたて、目標達成のために根強い努力をします (2) 愛校・友情の精神を一日の生活に表します (3) 自信の持てる力と人格を築きます
3 学年の目標	《独立》 私たち3年生は、自分の将来の方針をたて、最高学年として人格を磨き、よい社会人となります。 (1) 全校のよき指導者となります (2) 社会にたつ一切の準備をいたします (3) 自己の誇りと責任を自覚し、協力貢献を実践します

〈3〉年度目標

以上を踏まえて、平成26年度の目標を以下のように設定した。

平成26年度学校目標 『輝きは、私から』

One Up（ワンナップ）は「ひとつひとつスコアアップを図ること」。

千葉学芸高校として15年目。本年度のスローガンは「輝きは、私から」として、自立して創造を目指す力強い個の確立を目指していくことを掲げた。

闇夜の中で、あたりが暗いことを憂えて只立ち止まっているよりも、自ら灯りをともして闇夜を照らし、歩き始めるほうがいい。周囲がどうであれ、いかに環境が悪くても、自分自身が闇を照らす灯りとして輝けば、周囲は明るくなり、希望へと歩みを進めることができる。闇を切り拓く最初の一人になる勇気を持つということである。

普通科公務員コースの2学年の授業が開始される年度であり、新コースのカリキュラムを実践しながら公務員養成教育を確立させたい。

また、スクールカウンセラーの相談日を週1日から週2日に増やし、教育相談・カウンセリング機能を拡充する。これに伴い、国の施設高機能化補助制度を活用して、個室相談ブースの増設工事を行う。旧事務室に4つの個別相談ブースを備えた保健室を移転し、旧保健室を宿直室に模様替えして、保健衛生・教育相談・学校管理機能を向上させる。

施設設備面では、校庭の拡張整備に着手する。保護者による自家用車での送迎が増加しており、校庭内で登下校時のバスの乗降と錯綜して事故の危険性が高まっているため、校庭隣接の宿直管理棟を撤去し南側学校用地に移転することにより、買収済隣地を接続して現在の2倍近くに校庭スペースを広げることとした。校庭内で、バス乗降場と、保護者送迎スペースを区分して安全性を高めるほか、原則として校庭内に送迎車を収容することにより、周辺道路での混雑や渋滞を軽減することも意図している。おおむね3年程度の期間で整備を図るが、宿直室については校舎内に移転し、保健室を旧事務室の場所に移転することで総合的な利便性を高める。

本年度、千葉県私学教育研修集会家庭科分科会の会場校を担当することとなっている。期日は11月5日とし、家庭科教員を中心に担当する。

上記目標に主眼をおきながら、人格形成・コミュニケーションの充実、学力向上・技能獲得向上・資格取得、進路開拓などを目指して教育学習活動にあたる。特に特性の伸長、人間性の育成、技能教育を重視し、色彩教育、情報教育、福祉教育、環境教育、国際教育などに関連する授業や学校行事、クラブ活動などの諸活動の展開・充実を期す。

2. 学校の概要

学校法人高橋学園 千葉学芸高等学校

〒283-0005 千葉県東金市田間 1999 番地

TEL 0475-52-1161

FAX 0475-52-1163

インターネット <http://www.cgh.ed.jp/>

電子メール info@cgh.ed.jp

平成 25 年度	学級数・生徒数	1 学年	4 学級	1 4 0 名
		2 学年	4 学級	1 3 1 名
		3 学年	4 学級	1 4 3 名
		全校	1 2 学級	4 1 4 名

学校の概要については、インターネットホームページで公表中。また、創立 120 周年記念誌等の冊子にて紹介している。

3. 各部門の活動内容・活動状況（学校要覧）

学校の特色、および以下の事項等については、平成 27 年度学校要覧（冊子全 74 頁、関係者向け 5 月刊行）に記載。

- ・学校施設・設備、校舎面積
- ・学校行事の内容
- ・生徒会活動の内容
- ・クラブ活動の内容
- ・教職員の担当学年、担当教科、校務分掌、授業の持ち時間数、所持免許状の種類
- ・校内研修の内容
- ・学習指導（授業時数、時間割、総合的な学習の時間の内容）
- ・学籍・出欠席統計
- ・生徒指導上の諸問題及びそれに対する学校の対処や指導の状況
- ・進路の状況
- ・安全管理・保健管理（保健安全、防犯対策、防災対策）
- ・各部門の予算執行状況
- ・父母の会活動状況、地域との連携等の状況

4. 自己評価（平成26年度）

A. 全般の評価

（1）評価

全般評価：良好

（2）課題と改善策

全般に関わる特に重要な課題として、生徒募集および学力の向上の2つを取り上げる。

次に、平成26年度のトピックとして、千葉県私学教育研修集会家庭科分科会と、新設の公務員コースの取り組みを述べる。

生徒募集状況の課題

平成26年度の新入学生徒数は－3と、微減ながらほぼ平成25年度並みであった。近郊の中学卒業生数が減少する中で、近隣公立高校の学級減がなく、私学の定員割れが続き環境が悪化する中で、広報部を中心に生徒募集の努力をした結果であり、微減ながらも、この程度に減少を抑えた努力の成果があったと考えられる。公務員コース開設の効果もあり、学習成績が良好な生徒が従来よりも多く入学した。

平成27年度の生徒募集では、一転して非常に苦戦を強いられた。公立学校の入学定員について、山武地区では中学校卒業生数の減少と、累積的な過剰枠（＝私学の未充足枠）に対応して、本来は5学級程度の削減が必要であるのに、定員削減が1学級に留まったためである。広報担当職員の定年退職に伴う世代交代の過渡期ということもあり、若手の広報人材の育成を図る年でもあった。平成27年度は、結果として10名減の130名の入学予定者数であり、募集定員の46%に留まった。

本校の在学生の教育向上・進路状況は良好であり、困難な生徒募集状況は近隣公立学校定員過剰・公私学費格差等の外部要因によるものが主であると考えられる。公立高校の募集人員増減により直接左右される状況は脱していく必要があり、受験生から選ばれるための魅力を一層高めていく必要がある。生徒募集の拡大のためには、内容の充実、広報・PRの工夫等の自己対処方策の充実発展により改善を図っており、授業料減免制度や奨学金制度の周知により私学を敬遠する意識の解消に努めている。その結果、新入生では約半数が授業料減免制度を利用するなど、周知効果は高まっており、公私学費格差を乗り越える状況が生まれつつある。

今後は、環境悪化にも耐える体質改善を図るとともに、一層の広報努力によって生徒獲得を展開しなければならない。中学校教員も世代交代しており、本校ならではの数々の優れた特質について、中学校現場で十分には知られていないことを強く感じるようになった。より丁寧でわかりやすい広報が必要であり、広報活動の質的量的改善も図っていく必要がある。

また、県教委による高等学校再編計画の動向を注視しながら、展望をもって取り組んでいきたい。

学力の向上

21年度の年間目標に言語表現力の向上を掲げて以来、引き続き国語科および学年会による漢字学習指導、作文指導、全校漢字学力テストの複数実施、校内漢字検定の実施を行っている。常用漢字の

書き取りについて、個々の生徒に於いて繰り返しの学習成果は着実に現れ、作文を書かせてもひらがなばかりでほとんど漢字が書けなかった生徒が、適切な漢字かな交じりで文章を書けるようになるなどの効果が生まれている。基礎学力を身に付けたことに自信を深めた生徒が他の学習に意欲的に取り組む姿もみられ、教師による学習の働きかけと継続的な指導が奏功している。26年度は、これを一層進展するために、校内文芸コンテストを創設した。年間を通じて授業課題などで提出された作文や文芸作品から優秀作品を選出し、表彰するもので、優秀作品は校内文芸誌「松緑」に掲載した。これらにより、一層の表現力の向上に取り組みたい。

学力上位者については、フレッシュタイムワークと称する朝夕の特別学習講座に加え、eラーニングビデオ教材を活用して特別進学に対応する学習に取り組む学力向上を図った。城西国際大学・東京理科大学・千葉工業大学をはじめ多数の指定校推薦枠を得ているほか、大学入試センター試験を経て国立大学(千葉大学)に挑戦するレベルの生徒も現れており、進学コース設置の効果が現れつつある。

千葉県私学教育研修集会家庭科分科会

本年度、千葉県私学教育研修集会家庭科分科会の会場校を担当し、11月5日県内30あまりの私学教員が集まり、活発な研究討議が行われた。公開授業は嶋崎教諭が担当し、コンピュータ・視聴覚を活用して伝統教材である日本刺繍について学ぶ授業を展開し、非常に好評であった。授業後の研究討議でも、従来の事例ではあまり意見交換がなされず不活発であるのが通例であったのに、本校での分科会では非常に活発な意見交換が展開され、来校した家庭科教員たちが互いに学び合うことに非常に満足している様子がみられた。講演会では、放送大学教授の奈良由美子氏を招き、リスクマネジメントと家庭科教育について講話をいただいた。家庭科教育に明るい家政学の研究者である一方で、リスクマネジメント学に関する第一人者であり、高等学校の家庭科教育をつうじてリスクマネジメントを扱う方法と、その意義について興味深く講話をいただいた。来場者の満足度も高く、非常によい研究会を運営することができた。

公務員コース授業開始

平成25年度の生徒募集から、国際コースを廃して公務員コースを新設した。1年次は共通カリキュラムであるので、実質的な授業開始初年度が平成26年度となった。

公務員コースには、2学年の中から10名が希望し在籍認定された。学級編成は進学コースと同じクラスとし、類似する文系進学カリキュラムの一部内容が公務員コース独自のカリキュラムとなる形で時間割の編成を行った。すなわち、2年次における「課題研究」、3年次における「総合実践」の2科目、各2単位の商業科科目が、公務員コースの独自科目である。

26年度の「課題研究」では、学校法人立志舎千葉IT会計法律専門学校と教育提携を行い、講師の派遣を受けて、公務員試験対策の授業を通年で実施している。時に応じて、職場訪問・現場実習を行ったり、本校各教科教員による公務員コース特別授業を展開し、年間を通じて有能な公務員を育成するための教育を展開している。

最初の現場実習では、訪問先として東金税務署の協力を得て、男女別の公務員職場体験を実施した。公共業務の基幹である税務の実務に触れることで、公務員という仕事の意義や役割について考察する機会となった。電子納税システムについて学んだほか、書類ファイル作成などの事務仕事についても

体験し、職業についての理解が深まり、学習意欲の増進に繋がったようである。

次年度は3学年生徒について引き続き公務員試験対策を主とした学習を展開するとともに、実際に一般職公務員試験の本番を迎えるととなるので、的確に支援していく所存である。

B. 部門ごとの評価

（学校要覧に記載）

5. 学校関係者評価

学校運営会議開催（6月）。

保護者（5月）および生徒（2月～3月）にアンケートを実施した。

以 上